

### 学部の垣根を越えた、刺激的な学びの場

FLP (ファカルティリンケージ・プログラム Faculty-Linkage Program) は、幅広い学問領域をもつ総合大学のメリットを活かした教育プログラムです。各学部で設置された授業科目をピックアップして、5つのプログラムを設定。所属学部で主専攻を修めながら、学部の枠を越えて設けられたプログラムを体系的に学修することで、複数の専門知識をもった学際的な視点を身につけることができます。



### ■ 新たな知識領域を広げる5つのプログラム

主専攻の学びにプラスして、他分野の高度な専門知識や能力を身につけられるFLPは、中央大学のどの学部の学生でも履修することができます。他学部の学生と一緒に学ぶため、知的な刺激が生まれ、ゼミの仲間たちとの交流を通して、視野や人間関係が広がるのもFLPならではの魅力。以下のような5つのプログラムを設置し、学生の知的興味や好奇心に応えています。

#### 01 環境・社会・ガバナンスプログラム

環境問題を複数の視点から学び、自然と調和しながら社会活動を継続させるために必要な取り組みについて考え、よりよい解決策を提起できる能力を養います。

#### 02 メディア・ジャーナリズムプログラム

記者、ディレクター・プロデューサー、アナウンサー、編集者、コンテンツ・クリエイターなど、さまざまなメディアの世界で活躍できる人材を育成します。

#### 03 国際協力プログラム

開発途上国の諸問題を、経済開発、社会開発(教育、保健・衛生、ジェンダー等)、環境、国際協力などの多角的な視点から総合的に研究し、格差・貧困問題の解決に貢献できる能力を養います。

#### 04 スポーツ・健康科学プログラム

スポーツを健康、医療、文化、ビジネス、サービス、行政などとの関連の中で多面的に理解し、幅広い分野でスポーツの発展に寄与できる能力を養います。

#### 05 地域・公共マネジメントプログラム

さまざまな課題を抱える地方自治体の要望に応えられるよう、専門的な知識やスキルを修得。地域社会で、課題解決の政策形成を担える能力を養います。

### ■ ゼミ形式の学び + 実践的なフィールドワークの学び

FLPの学びの中心となる「演習科目」では、少人数のゼミナール形式で研究を行います。興味のあるテーマの調査・研究を自主的に進めながら、ゼミの仲間とディスカッションをしたり、見学調査や実態調査などのフィールドワークも行います。

### ■ 卒業単位として認定されるFLPの修得単位

プログラムで修得した講義科目(プログラムによって10~20単位)と演習科目(12単位)の単位は、原則として全て所属学部の単位(卒業単位として認定)になるので、所属学部の学修と両立して無理なく知識を深めることができます。

01

## 環境・社会・ガバナンスプログラム



### 自然科学、社会科学、人文科学の視点から環境問題を考える。

私たち人間は地球の資源を利用して、豊かな生活を追求してきましたが、その結果、地球温暖化や資源の枯渇など、数多くの深刻な問題を引き起こしています。これらの問題の解決には、環境についての理解（自然科学）、環境問題が経済や社会に及ぼす影響（社会科学）、また環境に対する政策設計（人文科学）などの知識が求められます。本プログラムでは、それら多様な知識を身につけ、環境・資源問題の解決に意欲的に取り組む人材を育てます。

#### 2024年度の演習A開講テーマ例

社会問題に対する経済学的アプローチ／環境・社会・政策脳科学

#### 将来の進路

国家公務員・地方公務員をはじめ、建設、運輸、旅行、金融・保険、新聞・放送、メーカーや大学院進学などの進路実績があります。

02

## メディア・ジャーナリズムプログラム



### デジタル時代のジャーナリストを育てる！

本学は長谷川如是閑や杉村楚人冠をはじめ、日本のジャーナリズム史に残る著名人を多数輩出しています。この伝統を継承し、さらなるジャーナリズムの発展に貢献するために開設されたのが、本プログラムです。演習は、実際のマスコミ業界において、新聞記者、放送局報道ディレクター、ドラマ・プロデューサー、アナウンサーなどを務めた実務経験者等が担当します。すでに、20年の歴史をもつ本プログラムからは、130人を超える人材をNHKをはじめとするマスメディア業界に送り出しております。

#### 2024年度の演習A開講テーマ例

ドキュメンタリー制作およびノンフィクション執筆の実践／“パブリックスピーキング”のスキルと社会を切り取る「視点」を身につける／新聞等の既存メディアからネットメディアまでマスメディアの全体状況を理解し、事実を正確に伝える文章力を身につける／映像リテラシー・ジャーナリズムとドラマとドキュメンタリー・自分のメッセージ（ドラマ制作）・テレビとSNS

#### 将来の進路

新聞・放送・出版・広告などのマスメディアのほか、通信、印刷、運輸、メーカー、公務員、大学院進学などの進路実績があります。

## 国際協力プログラム



### 途上国の開発や格差・貧困に関連する問題の解決法を探る。

開発途上諸国では、さまざまな面で格差が大きく、多くの人が現在も貧困にあえいでいます。本プログラムは、格差是正、貧困削減に貢献する人材の育成を目指して開設されました。「経済開発」「社会開発」「国際協力」といった視点から、途上国の開発などについて総合的に研究するとともに、その過程で、語学力や異文化コミュニケーション能力も養います。演習科目では、アジアの途上諸国を対象にして現地調査も実施しています。

#### 2024年度の演習A開講テーマ例

わかりえない、それでも「共生」を志向することは／発展途上国の格差・貧困問題と経済・社会開発：学際的・現場重視型アプローチ／企業・産業の国際比較～グローバル思考養成のために／〈ひとのつながりの新たなかたち〉を構想する惑星社会のフィールドワーク／開発社会学を通して東南アジアを捉える／変わりゆく世界と新たな国際協力のありかた

#### 将来の進路

国連やJICAといった途上国開発関連の機関をはじめ、JICA海外協力隊、国際協力NGOs、商社、メーカー、金融機関、コンサルタント会社（開発、経営）、放送・新聞業界、国家公務員（外務省含む）、教員、国内外の開発系大学院進学などへの進路実績があります。

## スポーツ・健康科学プログラム



### スポーツで社会を変える 人材の育成をめざす。

国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」社会を目指すためには、①「つくる／はぐくむ」、②「あつまり、ともに、つながる」、③「誰もがアクセスできる」という視点が必要であると、国の第3期スポーツ基本計画に掲げられました(2022年)。今、スポーツの力を社会に活かしていこうと、政府や各自治体をはじめ、プロスポーツや健康産業の領域においてさまざまな取り組みが開始されています。本プログラムでは、スポーツを発展させる方法を考えながら、スポーツで社会を変えるクリエイティブな人材を育成していきます。

#### 2024年度の演習A開講テーマ例

スポーツ心理（認知・行動）部分を知る／日本における競技スポーツ文化を考える／スポーツを「みる」／剣道を通じたビジネスおよび海外文化の理解／スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

#### 将来の進路

スポーツ産業界（Jリーグ、球団、スポーツメーカー、広告代理店、介護ビジネス）をはじめ、各スポーツ機関（日本アンチドーピング機構、日本陸上競技連盟など）、行政機関（各自治体職員）や教育機関（大学職員等）、大学院への進学など、多様な進路実績があります。



地域の課題を直視し、ニーズに応え、豊かな暮らしを構想する。

地域・公共マネジメントプログラムでは自治体行政や地域での取り組みをテーマとしています。それは、地域こそが問題が生起し、解決策が届けられるべき場であるからです。プログラムでは、子育て・教育、福祉、人権、治安、経済、財政といった幅広いトピックを取り上げ、学際的な学びを活かす姿勢を確立しその方法論を考えます。公務員のキャリアにとって、いずれかの地域で事業を展開するうえで、また、いずれかの地域の住民として生活するうえで、大切な学びとなるものです。

#### 2024年度の演習A開講テーマ例

地域資源を活かした地域経営を考える：そのための地域資源の再発見・再評価、マネジメント／本物のジェンダー平等を実現するために何が必要かー政治・法律・経済の視点からの探究ー／地域創生のデザインと地域イノベーション／地域活性化の源泉を探る／現代日本社会において人びとが生きていく場所としての地域を考える／地域に寄りそい、ひとにこころを寄せるフィールドワークと子どもたちが「生きやすい」コミュニティづくり／地域計画のための分析手法／スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究／地域社会における社会安全政策

#### 将来の進路

多くの国家公務員・地方公務員をはじめ、電気、建設、不動産、金融・保険や大学院進学などの進路実績があります。

## 履修生 Interview



### FLPを通じて広がる学際的交流と途上国の理解

#### 国際協力プログラム

総合政策学部 国際政策文化学科4年（2024年1月現在）

高村 汐里 TAKAMURA Shiori

私は国際協力プログラムの林光洋ゼミで途上国開発や国際協力を学びました。ゼミ活動の中で最も印象に残ったのは、学生主体で行った三年次の研究プロジェクトです。私たちの班は「フィリピンの農村ツーリズムが地域に与える影響」というテーマで、研究計画を立て、フィリピン現地調査に臨み、その研究成果について英語で論文を執筆しました。プロジェクトの過程では困難もありましたが、ゼミ生同士で協力して乗り越えることができました。その後、FLP国際協力プログラムの期末成果報告会での発表を通じて、他のゼミの方と学際的な交流ができたことは、大きな刺激となり視野を広げてくれました。

本プロジェクトを通じて、途上国の貧困や格差を目の当たりにしたことは、将来の進路を決める上でも一つの契機となり、途上国で電力プロジェクト等も行っている商社に就職を決めました。FLPの活動を通じて培った主体性や多角的な視野を社会で活かしていきたいです。

#### ■履修時の注意

プログラムは、新規開講・廃止することがあります。1年次後期に選考試験を行い、2年次からプログラムが開始します。FLPにて開講されている全プログラムには定員があり、希望者全員が履修できるわけではありません。演習科目をはじめとするプログラム修了に必要な科目の多くは、多摩キャンパスで開講しています。

#### ■お問い合わせ

全学連携教育機構事務室（多摩キャンパス5号館ペダ下）

TEL:042-674-3663

WEB:<https://www.chuo-u.ac.jp/gp/flp/>



詳細はこちら